



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しつかり考える子 ことばを大切にする子

目の前にある、もう1本の線は…？



○「一線を越える」という言葉があります。越えてしまうと、行動がどんどんエスカレートしてブレーキがきかなくなり、元に戻ろうとしても、もう戻れなくなってしまう線。人には、そんな決して越えてはならない一線があるのです。

学校でもそうです。「ちょっとぐらい」とか「〇〇ちゃんもしているから」に潜む危険を自覚しなければいけません。エスカレートして大きなけがをしたり、大きなトラブルになったりする前に、「これは危険！」「これはだめ！」と自分で自分にブレーキをかけることが必要です。

○最近、家庭のゴミを駅やコンビニのゴミ箱に捨てている人がいるという話を耳にします。なぜ捨てるのかを聞くと、「どうせゴミになるのだからどこで捨てても一緒」「家に置いておくと邪魔になるから」といった答えが返ってくるそうです。

みなさんは、そんなことはしませんよね。そこで質問です。

「あなたが、家庭のゴミを駅やコンビニのゴミ箱に捨てない理由は何でしょう。」

- ① たまたま家にゴミがなかったから。
- ② 駅員や店の人に見つかるのと叱られるから。
- ③ 捨てているところを誰かに見られると格好悪いし恥ずかしいから。
- ④ 自分勝手な考えで人に迷惑をかけるのはよくないことだから。



捨てないということはどれも同じですが、心の中に目を向けるとこうした違いが出てきます。

- ①は、まだ**道徳性のない心**と言えるでしょう。
- ②は、**他律の心**です。善悪の判断が他者にあります。
- ③は、**社会律と言われる心**です。周りからどう見られているか社会の視線が気になる心です。
- ④は、人が見ていても見ていなくても、人がしていてもしていなくても、自らの規準でしっかり判断する**自律の心**です。

人は、成長に伴って、道徳性のない心から、他律、社会律を経て、やがて自律の心に至ります。低学年から高学年へと心身共に成長する小学校時代にこそ、子どもにこの自律の心の基礎を養っていかねばなりません。そのためにも、家庭や地域でのちょっとした言葉がけが大切です。

「そんなことをしたら先生（お父さん・おまわりさんなど）に叱られるよ。」

「みんなが見ているから恥ずかしいでしょ。」

「あなただけが使っているものではないでしょ。」

3つとも子どものしたことに対して注意をしているのですが、かける言葉一つで子どもに育つ心が変わってきます。もうお分かりですよね。さて、今日からみなさんは家庭や地域でどんな言葉をかけることができるでしょうか？

将来、越えてはならない一線を越えないためにも、今のこの時期に自律の心の芽をしっかり育てておきたいものです。

